

月刊「拓」 83.7月号

日韓海底トンネル計画旗上げノ



から取り上げられないのは、金の出どころがはっきりしないこと。一部では宗教団体がからんでいるとのウワサがあったり、政府レベルでの話し合いがついていないのも大きな理由。いずれにせよ「日韓」といえば、ウサン臭いにおいがプンプンしてくるのだが…。

さる五月、都内の一流ホテルで「日韓トンネル研究会」なるパーティが、学会の大御所などが参加して開かれた。といっても「秘密会」という性格のものではなく、十社近い報道各社が取材するなど「公」のものだったが、これが記事にはならなかった。

なぜか？ とマスコミ関係者の間では、ちよつとした話題になっているのだが、この研究会の目的は、関釜フェリーの向こうを張って、対馬海峡にトンネルをつくるための研究という。この計画、韓国の全斗煥大統領の東南アジアから中国を通り、朝鮮半島を縦断して日本へつなぐ「アジアハイウェイ計画」の一貫という。

マスコミ各社が、これについて正面